



V・ファーレン長崎

雲仙普賢岳災害から30年をきっかけに防災について考える 1/2

雲仙普賢岳の噴火災害から30年という節目の年を迎え、V・ファーレン長崎のファン・サポーターはもとより、全国の多くの方の防災意識の向上を目指し様々な活動を展開した。新人研修の一環として鎌先祐弥選手が防災担当として被災地の今を学び、発信する役割を担った。また日本赤十字社の協力のもと、親子で学ぶ防災×サッカー教室を実施した。また、9月1日の防災の日に合わせて、日本赤十字社を講師に招き社内研修を実施し、その後開催された「ソナエルJapan杯」にクラブを挙げて取り組み、優勝することができた。



活動場所

島原市／南島原市(被災地域)、雲仙岳災害記念館(がまだすドーム)、南島原市立大野木場小学校、トランスコスモススタジアム長崎、長崎市総合運動公園



協働者

企業、住民、学校、行政、ファン・サポーター

協働者名

島原市・南島原市、公益財団法人雲仙岳災害記念財団、日本赤十字社長崎県支部、株式会社山善、V・ファーレン長崎ファン・サポーター



協働者の声

雲仙岳災害記念館(がまだすドーム)／北島 寛之 氏



雲仙普賢岳噴火災害から30年を迎えた2021年、私達はV・ファーレン長崎の皆様と共に災害を風化させない取り組みにチャレンジしました。新人選手の研修をはじめ、大野木場小学校への訪問活動、「いのりの灯」での連携した活動などを通じて、多くの方々に普賢岳噴火災害の教訓と防災の重要性を伝えることができました。



活動詳細情報

- 1 [公式Youtube①](#)
- 2 [公式Youtube②](#)
- 3 [Jリーグ公式Youtube](#)
- 4 [Sportsnavi記事](#)



カテゴリ(SDGs)／取り組みテーマ





V・ファーレン長崎

雲仙普賢岳災害から30年をきっかけに防災について考える 2/2

Story

雲仙普賢岳噴火大災害から30年を迎え、その記憶を語り継ぎながら、近年更に高まる災害危機についての意識を高めようと、防災教育に取り組んだ。Jリーグ新人研修の一環として鎌先祐弥選手が、一連の活動に臨んだ。

まず、島原市／南島原市のご協力のもと噴火災害について、がまだすドームの展示室やフィールドワークを通じて学び、その思いを当時火砕流によって全焼した南島原市立大野木場小学校の児童達に発表した。また、被災日である6月3日に「がまだすドーム」で開催される慰霊祭“いのりの灯”で展示されるキャンドルを児童達と共に作成した。



キャンドルには、所属全選手の慰霊メッセージを書き込み、慰霊祭後はホームゲームでもブースに設置。そこでは火砕流によって溶けた木やガラスなども展示し、来場者に改めて防災意識の向上を訴えかけた。これら一連の流れを「V・シャレン!」と銘打ち、クラブ公式YouTubeにて配信した。共に学んだ児童はホームゲームにも招待し、交流を深めることもできた。

7月には日本赤十字社長崎県支部との協働により、「防災×親子サッカーイベント」を実施した。災害時の避難について親子で学びを深め、終了後は親子でサッカーを楽しんだ。そこではスポンサーである「株式会社山善」の防災リュックを紹介。日頃の備えについての意識を高めた。

9月1日の防災の日に合わせて、日本赤十字社長崎支部から講師を招いて社内研修を実施し、災害時の応急処置や避難場所での過ごし方について学んだ。その様子は公式YouTubeの「潜入ヴィヴィくん」にて紹介。この後「ヤフー防災模試ソナエルJapan杯」にファン・サポーターと共に取り組み優勝することができた。副賞である電子ホイッスルは、長崎県



サッカー協会や自治体、長崎県障害者スポーツ協会等に配付し、防災意識向上につなげてもらっている。

雲仙普賢岳噴火大災害30年をきっかけでもあったが、これからも活動を継続し、防災意識の維持に貢献していきたい。